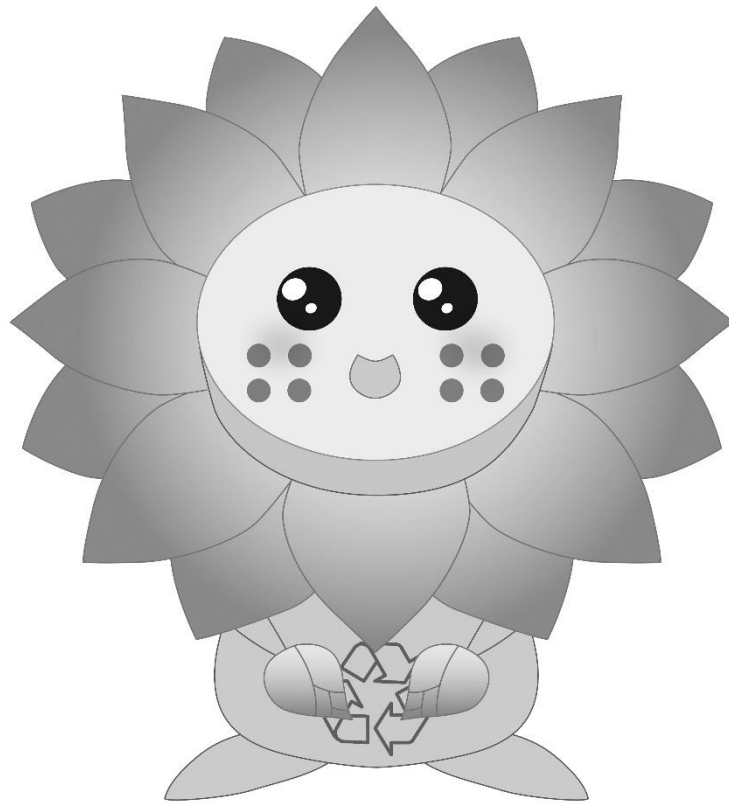


ごみ量の推移と 第2次町田市一般廃棄物資源化 基本計画の達成状況



2023 年7月

町田市環境資源部

1. 総ごみ量及び資源化量の推移

(1) 総ごみ量*

・総ごみ量は、2019年度、2020年度と増加傾向が続いていましたが、2021年度以降減少が続いています。

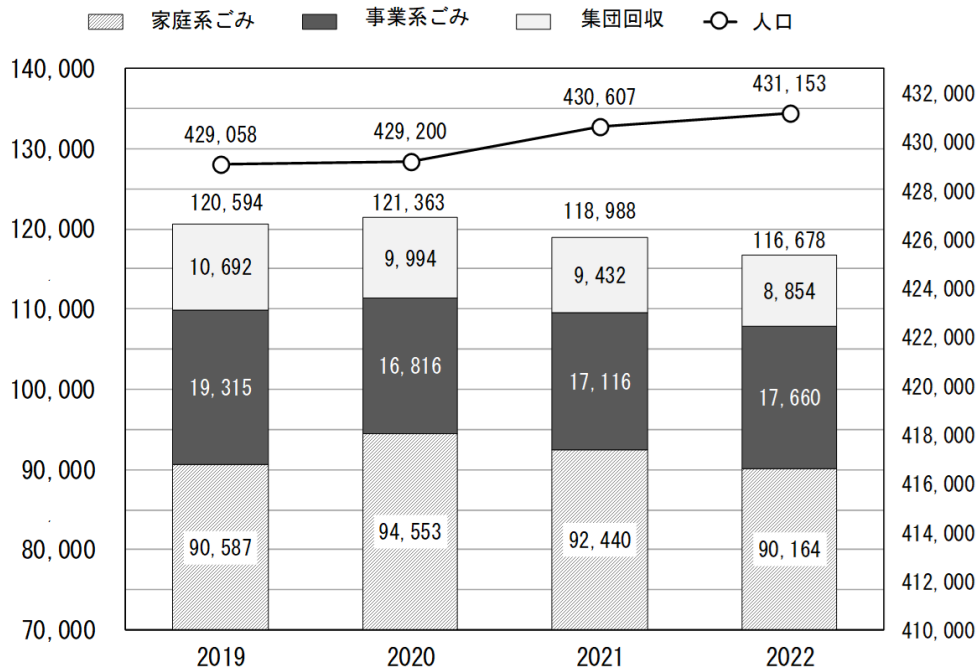
・2022年度の人口は2019年度と比較して0.5%増加しています。

(総ごみ量の推移)

2019年度→2022年度 -3,916 t (▲3.2%)

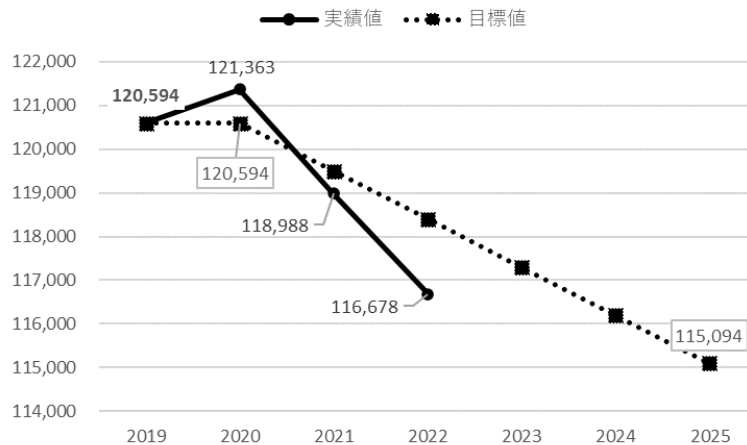
2021年度→2022年度 -2,310 t (▲1.9%)

総ごみ量と人口の推移



※ 総ごみ量・・・資源を含む、家庭系・事業系の合計
人口は10月1日時点

総ごみ量の実績値と目標値の比較



資源とごみの内訳

単位:t/年

年度		2019	2020	2021	2022	2019年度比	2021年度比		
人口(10月1日時点) 単位:人		429,058	429,200	430,607	431,153	0.5%	0.1%		
収集・持込量	ごみ	燃やせるごみ	家庭系	64,370	66,396	64,674	63,454	-1.4%	-1.9%
		事業系	19,315	16,816	17,116	17,660	-8.6%	3.2%	
		計	83,685	83,212	81,790	81,114	-3.1%	-0.8%	
		燃やせないごみ	7,258	8,070	7,457	6,846	-5.7%	-8.2%	
		粗大	3,233	3,281	3,498	3,519	8.8%	0.6%	
		有害	133	156	143	156	17.3%	9.1%	
	ごみ量小計		94,309	94,719	92,888	91,635	-2.8%	-1.3%	
	資源	収集分	古紙	7,681	8,127	7,929	7,847	2.2%	-1.0%
			古着・古布	1,099	1,296	1,200	1,114	1.4%	-7.2%
			発泡トレイ	8	8	7	13	62.5%	85.7%
			紙パック	15	15	14	15	0.0%	7.1%
			小型家電	6	7	9	10	66.7%	11.1%
			ペットボトル	1,048	1,094	1,144	1,182	12.8%	3.3%
			容器包装プラスチック	408	429	828	849	108.1%	2.5%
剪定枝			574	619	491	473	-17.6%	-3.7%	
ビン			2,721	2,914	2,774	2,664	-2.1%	-4.0%	
カン			933	1,058	1,048	995	6.6%	-5.1%	
計		14,493	15,567	15,444	15,162	4.6%	-1.8%		
持込分	リサイクル広場まちだ	107	89	86	96	-10.4%	11.5%		
	剪定枝	993	994	1,138	931	-6.2%	-18.2%		
計		1,100	1,083	1,224	1,027	-6.6%	-16.1%		
資源量小計		15,593	16,650	16,668	16,189	3.8%	-2.9%		
合計(総ごみ量)		109,902	111,369	109,556	107,824	-1.9%	-1.6%		
集団回収量	回収団体数 単位:団体	371	353	340	331	-10.8%	-2.6%		
	合計	10,692	9,994	9,432	8,854	-17.2%	-6.1%		
総ごみ量		120,594	121,363	118,988	116,678	-3.2%	-1.9%		

※容器包装プラスチックについては、2020年度までは資源化量としていましたが、2021年度からは収集量(不適物も含んだ数字)としています。

◆主な増減要因◆

- ・有害ごみ・小型家電について、2022年7月から小型充電式電池・ボタン型電池の行政回収を開始し、広く周知した影響で、2021年度と比較して収集量が増加していると推測されます。
- ・有害ごみ(乾電池、蛍光管、ライター、小型充電式電池等)について、2021年度の収集量と2022年度の収集量を比較すると、乾電池・小型充電式電池等が増加し、蛍光管が減少しています。
- ・リサイクル広場の来場者数について、2022年度に来場者数は25,904人となり、2021年度に来場者数(19,250人)と比較して、6,654人(34.6%)増加しています。

- ・ 集団回収（ビン、カン、古紙、古着・古布）量について、2021年度と2022年度の収集量を比較すると、全ての項目で収集量が減少しています。集団回収の古紙では、新聞、雑誌・雑紙、ダンボールが減少しています。

（２）資源化量

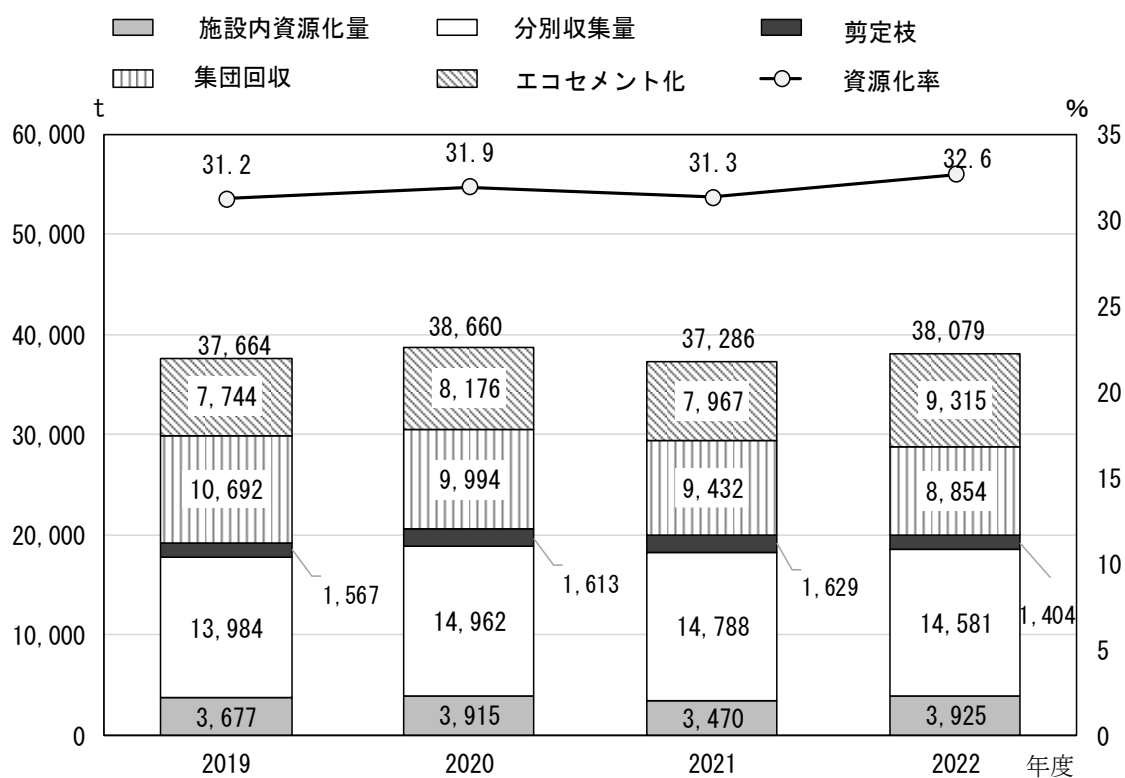
- ・ 資源化量は、2021年度と比較して増加しています。

（資源化量の推移）

2019年度→2022年度 +415 t (+1.1%)

2021年度→2022年度 +793 t (+2.1%)

資源化量の推移



※1 集団回収とは町内会・自治会、子ども会等が自主的に行っている資源回収

※2 資源化率 = 総資源化量合計（エコセメントと集団回収を含む） ÷ 総ごみ量

◆主な増減要因◆

- ・ 施設内での資源化について、2022年1月から町田市バイオエネルギーセンターで生ごみのバイオガス化を開始し、2022年度は1,065 tの資源化となりました。
- ・ エコセメント化量について、焼却灰・残さが増加したため、エコセメント化量も増加しています。
- ・ 剪定枝について、主要機器（発酵物搬送コンベヤ）故障による修繕の影響で、剪定

枝の資源化量が減少しました。

2. 第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画（2021年3月策定）の進捗状況

（1）目標に対する進捗状況

①【全体目標1】「1人1日当たりのごみ排出量」を「2019年度比7%削減」する

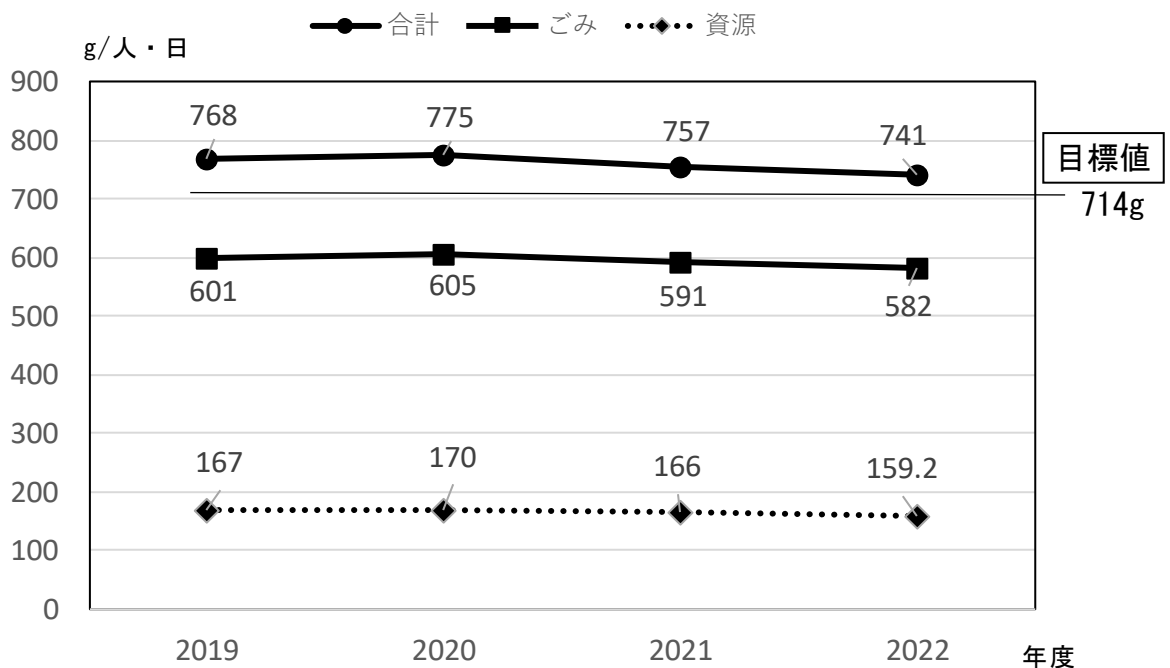
・発生抑制を重視し、1人1日当たりのごみ量（資源を含む）を2030年度までに714g/人・日に削減することを目標としています。

（1人1日当たりのごみ排出量の推移）

2019年度→2022年度 -27g（▲3.5%）

2021年度→2022年度 -16g（▲2.1%）

1人1日当たりのごみ排出量の推移



②【全体目標2】「総資源化率」を「40%」まで高める

・生ごみのバイオガス化施設でのメタン化をはじめとした総資源化率の

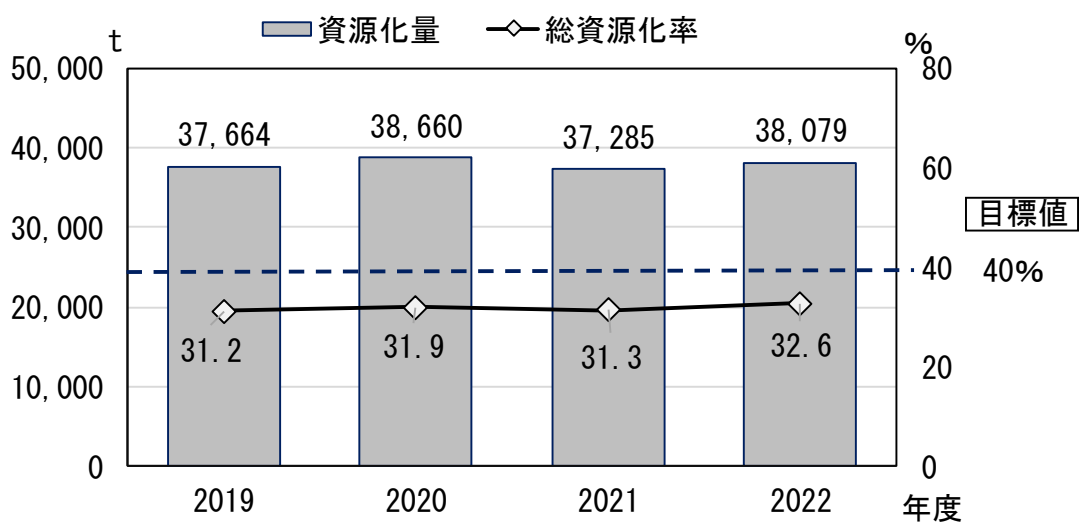
向上に向けた取組を進めることにより、2030 年度までに 40%まで高めることを目標としています。

(資源化率 (エコセメント・集団回収を含む) の推移)

2019 年度→2022 年度 +1.4 ポイント

2021 年度→2022 年度 +1.3 ポイント

資源化量と総資源化率の推移



◆主な増減要因◆

- ・分別収集量・集団回収量が減少したものの、施設内資源化・エコセメント化量が増加しています。

③【全体目標3】「温室効果ガス排出量」を「2019年度比30%削減」する

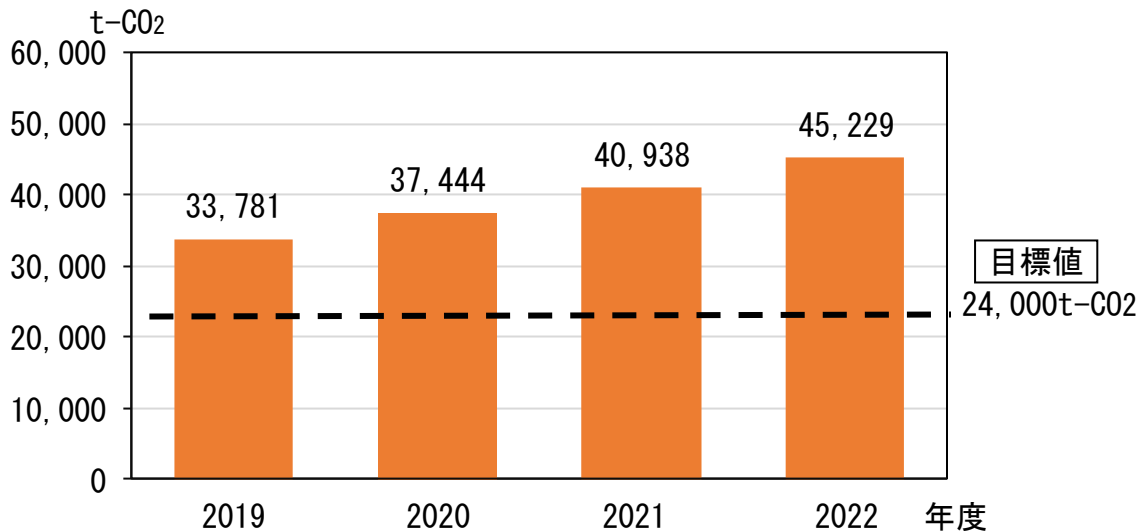
・発生抑制及びプラスチックの資源化を推進することで、ごみの焼却による温室効果ガス排出量を2030年度までに24,000t-CO₂へ削減することを目標としています。

(温室効果ガス排出量の推移)

2019年度→2022年度 +11,448t-CO₂ (+33.9%)

2021年度→2022年度 +4,291t-CO₂ (+10.5%)

温室効果ガス排出量の推移



◆主な増減要因◆

- ・ごみとして処理する量が減少したことに伴い、焼却量は減少しています。しかし、焼却量に含まれる繊維類の割合は変わっていませんが、プラスチックごみの割合が増加しているため、温室効果ガス排出量も増加しています。

3. 第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン（2021年3月策定）の進捗状況

基本計画を具体的に進めていくために、2021年に「第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン」を策定しています。

（1）目標値に対する進捗状況

①「生ごみ」の量

（生ごみの推移）

2019年度→2022年度 +1,378 t（+6.1%）

2021年度→2022年度 -372 t（▲1.5%）

【組成調査から推定した燃やせるごみ・燃やせないごみに含まれる生ごみの推移】

ごみの種類		2019 (基準年)	2020	2021	2022	2025 (目標値)
燃やせるごみ・燃やせないごみ(t)		71,628	74,466	72,131	70,300	-
組成割合(%)		31.4%	31.8%	33.6%	33.9%	-
生ごみ	推定量(t)	22,457	23,712	24,206	23,834	-
	基準年度比(t)	-	-	1,750	1,378	-2,000
	進捗度 (減量数/2,000t)	-	-	-87.5%	-68.9%	100.0%

◆主な増減要因◆

- ・燃やせるごみ・燃やせないごみの組成調査の結果から、手付かずのまま捨てられている生ごみの量・割合の増加傾向が続いています。

②容器包装プラスチックの量

（容器包装プラスチックの推移）

2019年度→2022年度 -241 t（▲1.8%）

2021年度→2022年度 +1,524 t（+13.4%）

【組成調査から推定した燃やせるごみ・燃やせないごみに含まれる容器包装プラスチックの推移】

ごみの種類		2019 (基準年)	2020	2021	2022	2025 (目標値)
燃やせるごみ・燃やせないごみ(t)		71,628	74,466	72,131	70,300	-
組成割合(%)		18.4%	17.5%	15.8%	18.4%	-
容器包装 プラスチック	推定量(t)	13,162	13,027	11,396	12,920	-
	基準年度比(t)	-	-	-1,765	-241	-1,200
	進捗度 (減量数/1,200t)	-	-	147.1%	20.1%	100.0%

◆主な増減要因◆

- ・燃やせるごみ・燃やせないごみの組成調査の結果から、軟質の容器包装プラスチック（商品の袋など）の割合が多く、増加傾向が続いています。

③古紙の量

（古紙（資源化できる紙類）の推移）

2019年度→2022年度 +947 t（+25.2%）

2021年度→2022年度 +1,131 t（+31.6%）

【組成調査から推定した燃やせるごみ・燃やせないごみに含まれる古紙の推移】

ごみの種類		2019 (基準年)	2020	2021	2022	2025 (目標値)
燃やせるごみ・燃やせないごみ(t)		71,628	74,466	72,131	70,300	-
古紙 (資源化できる紙類)	組成割合(%)	5.3%	6.3%	5.0%	6.7%	-
	推定量(t)	3,764	4,716	3,580	4,711	-
	基準年度比(t)	-	-	-184	947	-500
	進捗度 (減量数/500t)	-	-	36.8%	-189.5%	100.0%

◆主な増減要因◆

- ・収集分の古紙は減少していますが、燃やせるごみ・燃やせないごみに含まれる古紙は増加しています。

④事業系ごみの量

（事業系ごみの推移）

2019年度→2022年度 -1,655 t（▲8.6%）

2021年度→2022年度 +544 t（+3.2%）

【事業系ごみの推移】

	2019 (基準年)	2020	2021	2022	2025 (目標値)
事業系ごみ(t)	19,315	16,816	17,116	17,660	18,315
基準年度比(t)	-	-	-2,199	-1,655	-1,000
進捗度(減量数/1,000t)	-	-	219.9%	165.5%	100.0%

◆主な増減要因◆

- ・2022年度の事業系ごみの量は、2021年度と比較して増加していますが、新型コロナウイルス感染症拡大前のごみ量（2019年度）と比較すると、少ない状態が続いています。

⑤その他のごみの量（木・草類、繊維類、金属類、おむつ・衛生用品など）

（その他のごみの推移）

2019年度→2022年度 -3,103 t（▲8.7%）

2021年度→2022年度 -4,081 t（▲11.2%）

【その他のごみの推移】…家庭系ごみの合計から、生ごみ・古紙・容器包装プラスチックを除いたもの

	2019 (基準年)	2020	2021	2022	2025 (目標値)
家庭系ごみの合計-①	74,994	77,903	75,772	73,975	
生ごみ・古紙・容器包装プラスチックの量-②	39,382	41,456	39,182	41,466	
その他ごみ(①-②)	35,612	36,447	36,590	32,509	
基準年度比	-	-	978	-3,103	-1,500
進捗度(減量数/1500t)	-	-	-65.2%	206.9%	100.0%

◆主な増減要因◆

- ・燃やせるごみ・燃やせないごみの組成調査の結果から、木・草類や衛生用品の割合が減少しています。